

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-154791

(43)Date of publication of application : 17.06.1997

(51)Int.Cl.

A47L 13/20

(21)Application number : 07-320790

(71)Applicant : KAO CORP

(22)Date of filing : 08.12.1995

(72)Inventor : SUZUKI YOICHI

ABE KEIJI

TSUTSUMI YASUKI

AOKI SACHIKO

SEDAI FUMIHIKO

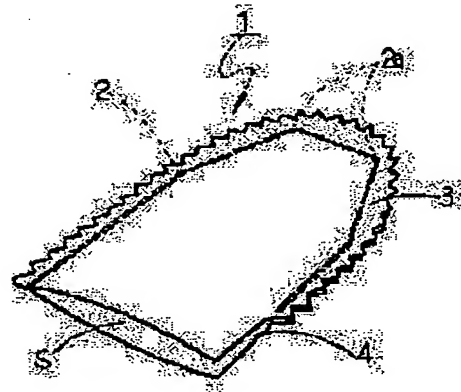
HIRAYAMA HARUNOBU

(54) CLEANING CLOTH AND CLEANING TOOL

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To enable the appropriate cleaning of a narrow space, too, and further, to enable the economical use of these cleaning cloth and cleaning tool by disposing a non-stuck part on the outside of a stuck part of nonwoven fabric.

SOLUTION: A cleaning cloth 1 is formed to a flat bag shape so as to have an inserting space S by sticking together two pieces of spun-laced nonwoven fabric with a peripheral part cut in the continuous chevron shape by means of the heat sealing. Further, the cleaning cloth 1 is provided with the stuck part 2 having two corner parts 2a at the end part and the non-stuck part 3 at the peripheral part of the cleaning cloth 1 on the outside of the stuck part 2. Further, a slit 4 is formed on one side part of the cleaning cloth 1 to facilitate the attaching/detaching of the cleaning cloth 1. Then, wipe cleaning is executed with the inside of the stuck part 2 by inserting the head part of a shunk main body into the inserting space S and dust is removed by inserting the non-stuck part 3 into a narrow space.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 22.07.1997

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 26.01.1999

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2977477

[Date of registration] 10.09.1999

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection] 25.02.1999

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平 9 - 1 5 4 7 9 1

(43) 公開日 平成 9 年 (1997) 6 月 17 日

(51) Int. Cl. °
A47L 13/20

識別記号 庁内整理番号

F I
A47L 13/20

技術表示箇所

B

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平 7 - 3 2 0 7 9 0

(22) 出願日 平成 7 年 (1995) 12 月 8 日

(71) 出願人 0 0 0 0 0 9 1 8

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町 1 丁目 1 4 番 1
0 号

(72) 発明者 鈴木 陽一

栃木県芳賀郡市貝町赤羽 2 6 0 6 花王株
式会社研究所内

(72) 発明者 阿部 啓二

栃木県芳賀郡市貝町赤羽 2 6 0 6 花王株
式会社研究所内

(74) 代理人 弁理士 羽鳥 修 (外 1 名)

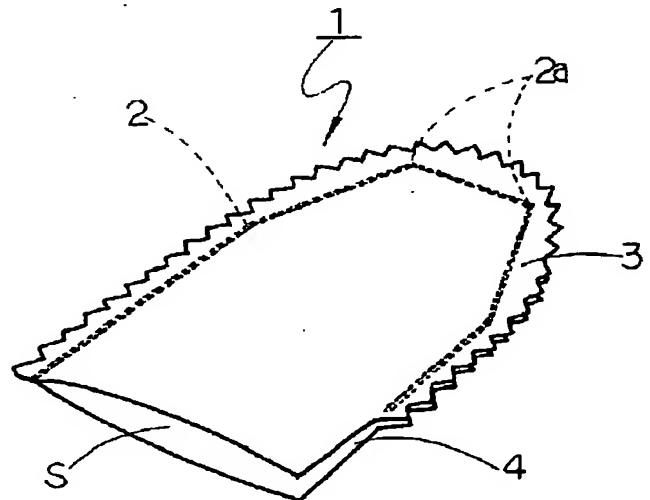
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 清掃布及び清掃具

(57) 【要約】

【課題】 狭い隙間の清掃も好適に行える清掃布を提供すること。

【解決手段】 不織布を貼り合わせて貼り合わせ部 2 を設け、その内側に挿入空間 S を有する扁平な袋状に形成した清掃布であって、上記貼り合わせ部 2 の外側に、非貼り合わせ部 3 を有する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 不織布を貼り合わせて貼り合わせ部を設け、その内側に挿入空間を有する扁平な袋状に形成した清掃布であって、上記貼り合わせ部の外側に、非貼り合わせ部を有することを特徴とする清掃布。

【請求項 2】 柄本体の先端部に柔軟性素材からなる清掃布装着用のヘッド部を備えた柄と、挿入空間を有する扁平な袋状の清掃布とからなり、上記挿入空間に上記ヘッド部が挿入されることにより、上記清掃布が上記柄に装着されていることを特徴とする清掃具。

【請求項 3】 上記清掃布として、請求項 1 に記載の清掃布を装着したことを特徴とする請求項 2 に記載の清掃具。

【請求項 4】 上記清掃布の開口部に、少なくとも一箇所以上のスリットを設けたことを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の清掃具。

【請求項 5】 上記ヘッド部の前方部に、上記清掃布を取り外す際に該清掃布の内面が引っ掛かる引掛部を設けたことを特徴とする請求項 4 に記載の清掃具。

【請求項 6】 上記ヘッド部の先端部に角部を設けたことを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の清掃具。

【請求項 7】 上記柄本体を伸縮自在にしたことを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の清掃具。

【請求項 8】 上記柄本体を、上記ヘッド部に対して上下に反転させて装着可能に設けたことを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の清掃具。

【請求項 9】 上記ヘッド部内に、芯材が配設されていることを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の清掃具。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】 本発明は、乾式の清掃用シート製の袋状の清掃布及び清掃具に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】 近年、室内清掃用の清掃具として、掃除機よりも静かで且つ手軽に清掃ができ、また、雑巾の様に水を使わずに使用できる乾式の清掃用シート製の清掃布を使用した清掃具が提案されている。斯かる清掃具に関する従来技術としては、柄の先端部に固定プレートを取り付けておき、この固定プレートに使い捨ての清掃用シートを装着して使用する清掃具（特開平 7 - 8 4 3 4 号公報参照）や、清掃布にクッション材を使用した清掃具（実公平 6 - 3 4 7 7 3 号公報参照）等の種々の清掃具が提案されている。

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、従来の清掃具では、広い面積の清掃には好適であるが、キーボードなどのキーの隙間や、各種 OA 機器の操作ボタンの隙間等の狭い隙間の清掃には不向きであった。また、従来の清掃具では、清掃用シートに、固定プレートへ固定するための取付しろを設ける必要があり、また、その取付し

ろでは清掃ができないので、不経済であった。

【 0 0 0 4 】 従って、本発明の第 1 の目的は、狭い隙間の清掃も好適に行える清掃布を提供することにある。また、本発明の第 2 の目的は、経済的に使用できる清掃具を提供することにある。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】 本発明の請求項 1 に記載の発明は、不織布を貼り合わせて貼り合わせ部を設け、その内側に挿入空間を有する扁平な袋状に形成した清掃布であって、上記貼り合わせ部の外側に、非貼り合わせ部を有することを特徴とする清掃布を提供することにより、上記第 1 の目的を達成したものである。

【 0 0 0 6 】 本発明の請求項 2 に記載の発明は、柄本体の先端部に柔軟性素材からなる清掃布装着用のヘッド部を備えた柄と、挿入空間を有する扁平な袋状の清掃布とからなり、上記挿入空間に上記ヘッド部が挿入されることにより、上記清掃布が上記柄に装着されていることを特徴とする清掃具を提供することにより、上記第 2 の目的を達成したものである。

【 0 0 0 7 】 本発明の請求項 3 に記載の発明は、請求項 2 に記載の清掃布において、上記清掃布として、請求項 1 に記載の清掃布を装着したことを特徴とする清掃具を提供するものである。

【 0 0 0 8 】 本発明の請求項 4 に記載の発明は、請求項 2 又は 3 に記載の清掃具において、上記清掃布の開口部に、少なくとも一箇所以上のスリットを設けたことを特徴とする清掃具を提供するものである。

【 0 0 0 9 】 本発明の請求項 5 に記載の発明は、請求項 4 に記載の清掃具において、上記ヘッド部の前方部に、上記清掃布を取り外す際に該清掃布の内面が引っ掛かる引掛部を設けたことを特徴とする清掃具を提供するものである。

【 0 0 1 0 】 本発明の請求項 6 に記載の発明は、請求項 2 又は 3 に記載の清掃具において、上記ヘッド部の先端部に角部を設けたことを特徴とする清掃具を提供するものである。

【 0 0 1 1 】 本発明の請求項 7 に記載の発明は、請求項 2 又は 3 に記載の清掃具において、上記柄本体を伸縮自在にしたことを特徴とする清掃具を提供するものである。

【 0 0 1 2 】 本発明の請求項 8 に記載の発明は、請求項 2 又は 3 に記載の清掃具において、上記柄本体を、上記ヘッド部に対して上下に反転させて装着可能に設けたことを特徴とする清掃具を提供するものである。

【 0 0 1 3 】 本発明の請求項 9 に記載の発明は、請求項 2 又は 3 に記載の清掃具において、上記ヘッド部内に、芯材が配設されていることを特徴とする清掃具を提供するものである。

【 0 0 1 4 】 本発明の請求項 1 に記載の清掃布は、貼り合わせ部の内側で拭き掃除を行えるほか、非貼り合わせ

部を狭い隙間に挿入できるので、清掃箇所に応じた清掃を良好に行うことができる。また、挿入空間を有する袋状に形成されており、当該挿入空間に柄の先端部などを挿入することによって清掃を行うことができ、取り付けしろが不要であるほか、清掃布を裏返すことによって、表裏両面共使用できるので、経済的である。更に、貼り合わせ部が直接清掃対象に当たらずに済むので、シール方法などで貼り合わせた場合にも当該貼り合わせ部が清掃対象物を傷付けることがない。

【 0 0 1 5 】本発明の請求項 2 に記載の清掃具においては、清掃布が挿入空間を有する袋状に形成されており、当該挿入空間に柄の先端部などを挿入することによって簡単に装着でき、取り付けしろが不要であるほか、清掃布を裏返すことによって、表裏両面共使用できるので、経済的である。また、上記清掃布装着用のヘッド部が柔軟性素材からなる設けられているので、当該ヘッド部に清掃布を装着して清掃する際に対象物に傷をつけることがない。

【 0 0 1 6 】本発明の請求項 3 に記載の清掃具においては、挿入空間に上記ヘッド部を挿入することによって簡単に清掃布を装着でき、取り付けしろが不要であるほか、表裏両面共使用できるので、経済的である。また、ヘッド部が柔軟性素材からなり、しかも貼り合わせ部が直接清掃対象に当たらずに済むので、シール方法などで貼り合わせた場合にも当該貼り合わせ部が清掃対象物を傷付けることがない。更に、貼り合わせ部の内側で拭き掃除を行えるほか、非貼り合わせ部を狭い隙間に挿入できるので、清掃箇所に応じた清掃を良好に行うことができる。

【 0 0 1 7 】本発明の請求項 4 に記載の清掃具においては、上記清掃布の開口部に、少なくとも一箇所以上のスリットが設けられているので、当該清掃布のヘッド部への取付け・取り外しを容易に行うことができる。

【 0 0 1 8 】本発明の請求項 5 に記載の清掃具においては、清掃布をヘッド部から取り外す際に、上記引掛部に当該清掃布の内面が引っ掛かるので、当該清掃布をを簡単に裏返すことができる。

【 0 0 1 9 】本発明の請求項 6 に記載の清掃具においては、ヘッド部の先端部に角部が設けられているので、この角部によって、ゴミや埃などがたまりやすいコーナー部分を簡単に掃除することができる。

【 0 0 2 0 】本発明の請求項 7 に記載の清掃具においては、上記柄本体が伸縮自在に設けられているので、清掃箇所に応じて柄本体を伸縮させることができるほか、収納時にもコンパクトに収納することができる。

【 0 0 2 1 】本発明の請求項 8 に記載の清掃具においては、ヘッドを上下に反転させることによって、簡単に未使用面で清掃を行うことができる。

【 0 0 2 2 】本発明の請求項 9 に記載の清掃具においては、上記ヘッド内に、芯材が配設されているので、ヘッ

ドに適度の剛性を付与することができる。

【 0 0 2 3 】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施の形態を添付図面を参照しながら説明する。

【 0 0 2 4 】本発明に係る清掃布は、不織布を貼り合わせて貼り合わせ部を設け、その内側に挿入空間を有する扁平な袋状に形成した清掃布であって、上記貼り合わせ部の外側に、非貼り合わせ部を設けたものである。

【 0 0 2 5 】上記清掃布を構成する不織布は、吸塵性に優れ且つ耐摩耗性に優れている繊維材料からなる不織布が特に好ましく使用される。この様な性質を備えた好ましい不織布としては、例えば、スパンレース不織布、スパンボンド不織布、サクシオン不織布、ヒートボンド不織布、メルトブローン不織布等が挙げられる。

【 0 0 2 6 】本発明の清掃布は、内部に挿入空間を有する扁平な袋状に形成するように、例えば、二枚の不織布を重ね合わせ、所定の幅でシールして貼り合わせ部を設けることが好ましいが、一枚の不織布を折曲し、折曲箇所以外の部分を所定の幅でシールして貼り合わせ部を設け、ヘッドの形態に対応した挿入空間を有する扁平な袋状に形成することもできる。

【 0 0 2 7 】上記貼り合わせ部の形態は、先端部に角部を有する形態としたり、平面視して U 字状、V 字状等の形態とすることが好ましい。また、貼り合わせ部は、種々のシール法による他、縫合によっても設けることができる。シール法によって貼り合わせ部を設ける場合には、その幅を、20 mm ~ 0.1 mm、好ましくは 10 mm ~ 1 mm とすることで、所望の強度を得ることができる。シール法には、超音波シール法、ホットメルト接着剤を用いたシール法、ヒートシール法等のシール法を採用することができる。これらのシール法によって貼り合わせ部を形成する場合のシールパターンは、特に限定されるものではないが、好ましいシールパターンとしては、例えば、ベタ、ストライプ、トッド等のシールパターンが挙げられる。また、縫合によって貼り合わせ部を設ける場合には、ミシン縫い等で用いられる通常の縫合法を採用することが好ましい。

【 0 0 2 8 】また、貼り合わせ部の外側に設ける非貼り合わせ部の幅は、貼り合わせ部を上記シール法によって設ける場合には、不織布の周縁部から 1 mm ~ 50 mm、好ましくは、5 mm ~ 30 mm とする。上記 1 mm よりも幅が狭いと、シールされた貼り合わせ部で清掃対象物を傷つけ易くなるほか、当該非貼り合わせ部での吸塵効果がほとんどなくなり、また、上記 50 mm を超えると、非貼り合わせ部の腰がなくなって清掃し辛くなる。また、上記貼り合わせ部を上記縫合により設ける場合には、不織布の周縁部から 1 mm ~ 50 mm、好ましくは 5 mm ~ 30 mm とする。1 mm よりも狭いと、縫合糸がほつれやすくなるほか、当該非貼り合わせ部の吸塵効果がなくなり、また、50 mm を超えると、非貼り

合わせ部の腰がなくなって清掃し辛くなる。

【 0 0 2 9 】 上記非貼り合わせ部は、貼り合わせ部に対応してその外側に設けることが好ましく、上述の如く、二枚の不織布から清掃布を形成した場合には、非貼り合わせ部は、開口部を除く清掃布の全周に設け、また、一枚の不織布から袋状に形成した場合には、清掃布の周縁部の一部に設けることが好ましい。なお、非貼り合わせ部は、貼り合わせ部に対応して設けることが好ましいが、貼り合わせ部の外側の一部に設けても良い。この貼り合わせ部の外縁部の形態は、特に限定されるものではないが、例えば、連続的な山型形状（鋸歯状）にカットした形態とすることが埃等を効果的に付着させる上で効果的である。

【 0 0 3 0 】 上記清掃布の開口部に少なくとも一箇所以上のスリットを設けることは、当該清掃布の取付・取り外しを容易にする上で効果的である。この場合、スリットの長さは、1 0 mm ～ 7 0 mm 程度とすることが好ましい。

【 0 0 3 1 】 次に、本発明に係る清掃具の実施形態について説明する。本発明に係る清掃具は、柔軟性素材からなる清掃布装着用のヘッド部を備えた柄と、挿入空間を有する扁平な袋状の清掃布とから構成されるものである。

【 0 0 3 2 】 上記清掃具における清掃布は、挿入空間を有する扁平な袋状の形態を有するものであれば、特に制限されないが、上述した本発明の清掃布を使用することが特に好ましい。なお、本発明の清掃具における清掃布は、パイルや房状体を備えていないものである。

【 0 0 3 3 】 上記ヘッド部を構成する柔軟性素材には、スポンジ状の多孔性の柔軟性素材、人工皮革若しくは布製の袋にフェルトや綿等の繊維材料を内包させたクッション状の柔軟性素材、又はゴム状の柔軟性素材を使用することが好ましい。

【 0 0 3 4 】 上記ヘッド部をスポンジ状の多孔性の柔軟性素材で作製する場合には、耐久性に優れた軟質の発泡させた合成樹脂からなる多孔性の柔軟性素材を使用することが特に好ましい。この様な性質を備えた好ましい多孔性の柔軟性素材としては、例えば、発泡ポリエチレン、発泡ポリウレタン等の樹脂が挙げられる。

【 0 0 3 5 】 また、上記ヘッド部を上記のような合成樹脂製の多孔性の柔軟性素材で作製する場合には、清掃布の装着・取り外しがスムーズに行えるように、その表面滑性を良好なものとすることが好ましく、このような表面滑性を良好にする方法としては、例えば、メルトーム加工（表面滑性を良好にする加工法）が挙げられる。

【 0 0 3 6 】 また、上記ヘッド部の形態は、装着する清掃布に応じて適宜変更可能であるが、先端部に角部を有する形態とすることが好ましい。このような形態にすることで、コーナー部分や狭い隙間を清掃しやすくなる。また、ヘッド部に、先端部に進むにつれて薄くなる

ようにテーパーを設けたり、幅方向に進むにつれて薄くなるようにテーパーを設けること（例えば、断面形状を台形状や、凸レンズ状の形状に設ける。）は、コーナー部分の清掃を容易にしたり、狭い隙間の清掃をしやすくする上で効果的である。なお、ヘッド部は、一定の厚さに設けてもよい。

【 0 0 3 7 】 また、ヘッド部内には、芯材を配設することにより、所望の剛性を付与することが好ましい。このヘッド部内への芯材の配設は、ヘッドを上記多孔性の柔軟性素材や、クッション状の柔軟性素材で作製した場合に特に効果的である。

【 0 0 3 8 】 上記芯材の形態は、ヘッド部の形態に合わせて適宜変更できる。上記芯材は、柄本体に一体的に設けてもよく、また、柄本体と別体に設けてもよい。

【 0 0 3 9 】 上記芯材は、柄本体と別体に設ける場合には、ポリプロピレン、ABS、ポリカーボネート等の合成樹脂や、ステンレス、パネ鋼等の金属製のものが好ましい。この場合、芯材の下端部には、当該芯材を柄本体へ装着するための装着手段（例えば、雄ねじ部材）を設けることが好ましい。

【 0 0 4 0 】 上記ヘッド部は、上述のように、多孔性の柔軟性素材やクッション状の柔軟性素材材で作製した場合には、内部に芯材を配設することが好ましいが、ゴム等の柔軟性弾性部材で作製した場合には、芯材を除いた構成とすることもできる。

【 0 0 4 1 】 また、上記ヘッド部の前方部に、上記清掃布を取り外す際に該清掃布の内面に引っ掛かる引掛部を設けることは、清掃布を一旦ヘッド部から取り外して清掃布の裏面を使用する際に、当該清掃布をヘッド部から取り外すと同時に裏返し易くする上で効果的である。このような引掛部は、清掃布を取り外す際に該清掃布の内面に引っ掛かる形態のものであれば特に限定されるものではないが、例えば、ファスナー付きテープ（例えば、登録商標「マジックテープ」、以下同じ）をそのファスナーの先端を後方に向けて当該ヘッド部の前方部に貼着したり、くさび状の起立突起を備えたプラスチック製の薄板を、当該起立突起の先端を後方に向けて貼着したり、或いは、一端部を櫛歯状に設けたプラスチック製の薄板を、当該一端部を後方に向けて貼着したりすることによって設けることができる。また、引掛部は、上述したようにヘッド部をスポンジ状の多孔性の柔軟性素材で作製する場合において、ヘッド部自体がくさび状の突起部を有するように成形可能な成型型を用いて、ヘッド部を成形することによって設けてもよい。

【 0 0 4 2 】 また、本発明の清掃具において、柄本体の握り手の部分は、上記ヘッド部を装着する部分に比べて高くなるように設けることが、清掃をしやすくする上で好ましい。また、柄本体は、棒状に設けてもよい。

【 0 0 4 3 】 上記ヘッド部は、上記柄本体又は上記芯材に、着脱不能に固定するか若しくは着脱自在としてもよ

い。上述のように柄本体の握手の部分を、上記ヘッド部を装着する部分に比べて高くなるように設ける場合には、柄本体とヘッド部とを着脱自在且つ上下反転装着可能に設けることが清掃布を無駄なく使用して清掃する上で効果的である。

【 0 0 4 4 】本発明の清掃具において、上記柄本体を、公知の伸縮機構を用いて伸縮自在とすることは、高い箇所や、狭い奥まった箇所を清掃する上で効果的である。上述のように、柄本体の握手の部分をヘッド部に比べて高くする場合には、握手の部分を伸縮自在且つ所定位置で係止可能としたり、ヘッド部の装着部分を伸縮自在且つ所定位置で係止可能とすることが好ましい。なお、柄本体を棒状とする場合には、2本以上の複数本の筒状部材を主体として構成し、これらを伸縮自在且つ所定位置で係止可能に設けることが好ましい。柄本体は、伸縮不能のもので構成してもよいことはいふまでもない。また、柄本体を棒状とする場合には、その断面形状は、楕円形、円形、多角形状などの種々形状と或いはこれらの形状を組み合わせたものにするができる。上記柄本体は、塩化ビニル、ポリプロピレン、ABS、ポリカーボネート、アルミ若しくはその合金、木、竹製のものが、軽量で丈夫且つ低コストであるので好ましい。

【 0 0 4 5 】本発明の清掃具において、清掃中に清掃布が剥がれないようにする方法としては、柄本体にファスナー付きテープを貼着しておき、ヘッド部を清掃布の挿入空間に挿入させた後にこのファスナー付きテープに装着した清掃布を押しつけて固定する方法、ヘッド部の表面や柄本体の表面に、菊座と称される放射状のスリットを形成する可撓製の複数の片部を設けておき、当該スリット内に清掃布を押し込んで固定する方法、或いは、柄本体に嵌合凹所を設けるとともに、この嵌合凹所に対応した嵌合突起を備えた挟持板をヒンジを介して設けておき、清掃布を装着した後に、上記嵌合突起を嵌合凹所に嵌合させて当該清掃布を挟持することによって固定する方法等の方法を採用することができる。

【 0 0 4 6 】

【実施例】以下、本発明の実施例をさらに具体的に説明する。

【 0 0 4 7 】〔実施例 1・・・本発明に係る清掃布の実施例〕図 1 及び図 2 は、本発明に係る清掃布の一実施例を示したものである。図において、符号 1 は清掃布を示している。

【 0 0 4 8 】図 1 及び図 2 に示したように、上記清掃布 1 は、周縁部が連続的な山形状にカットされた 2 枚のスパンレース不織布が、ヒートシールによって貼り合わされて挿入空間 S を有する扁平な袋状に形成されたものである。本実施例の清掃布 1 には、先端部に二つの角部 2 a を有する形状の幅 5 mm の貼り合わせ部 2 が設けられている。そして、この貼り合わせ部 2 の外側に、清掃布

1 の周縁部に沿う幅 10 mm ～ 30 mm の非貼り合わせ部 3 が設けられている。また、上記清掃布 1 の一侧部には、スリット 4 が形成されており、当該清掃布 1 の取り付け・取り外しが容易に行えるようになしてある。

【 0 0 4 9 】上記清掃布 1 は、上記挿入空間 S 内に、例えば後述の清掃具における柄本体のヘッド部を挿入し、貼り合わせ部 2 の内側でふき清掃を行ったり、上記非貼り合わせ部 3 を狭い隙間に挿入して当該隙間内の埃を吸着させて埃取りを行うなど、掃除箇所に応じて清掃を行うことができる。また、従来のシートタイプの清掃布のような取付しろが不要であり、裏面は裏返して使用することができるので、清掃布を余すところ無く使用することができ、経済的である。

【 0 0 5 0 】〔実施例 2・・・本発明に係る清掃具の実施例〕図 3 ～ 図 6 は、本発明に係る清掃具の一実施例を示したものである。これらの図において、符号 10 は清掃具を示している。

【 0 0 5 1 】図 3 に示したように、上記清掃具 10 は、柄本体 11 の先端部に柔軟性素材からなる清掃布装着用のヘッド部 12 が固定された柄 13 と、上記実施例の清掃布 1 とからなり、当該清掃布 1 の挿入空間 S に上記ヘッド部 12 を挿入し、上記柄 13 に上記清掃布 1 を装着してなるものである。

【 0 0 5 2 】上記ヘッド部 12 は、表面にメルトーム加工が施されたポリウレタン製の多孔性の柔軟性素材から構成されている。上記ヘッド部 12 は、先端部に進むにつれて、また、幅方向に進むにつれてそれぞれ肉厚が薄くなるようにテーパ 12 a、12 b が設けられており、その先端部には、二つの角部 12 c が設けられている。また、上記ヘッド部 12 の前方部には、ファスナーの先端を後方に向けたファスナー付きテープ T1 が貼着されており、このファスナー付きテープ T1 のファスナーが、上記清掃布 1 を取り外す際に当該清掃布の内面に引っ掛かるようになしてある。そして、当該清掃布 1 をヘッド部 12 から取り外すと同時に裏返し易くできるようになしてある。なお、ヘッド部 12 の内部には後述する芯材を挿入するための挿入部 12 d が設けられている。

【 0 0 5 3 】上記柄本体 11 は、その先端部に、上記ヘッド部 12 の挿入部 12 d に挿入するための芯材 11 a が一体的に設けられたポリプロピレン製の成形品である。また、柄本体 11 は、先端部の芯材 11 a の部分よりも、握り手 11 b の部分が高く設けられており、拭取り操作が行いやすくなっている。また、柄本体 11 における、芯材 11 a の部分と握り手 11 b の部分との間に位置する部分には、ファスナー付きテープ T2 が貼着されており、このファスナー付きテープ T2 に清掃布 1 を押しつけることによって、上記ヘッド部 12 に装着した清掃布 1 が清掃中に剥がれないようになしてある。さらに、握り手 11 b は、所定位置で互いに係合する係合部

を備えた二重構造の部材で構成された伸縮機構を備えており、その長さを必要に応じて調整できるようになしてある。

【 0 0 5 4 】 上記清掃具 1 0 を使用する際には、まず、図 4 に示すように、上記柄 1 3 のヘッド部 1 2 に上記清掃布 1 を被せるように装着する。この際、上記ヘッド部 1 2 の表面にメルトーム加工が施されているので、清掃布 1 の装着をスムーズに行うことができる。次いで、柄本体 1 1 に貼着したファスナー付きテープ T 2 上に当該清掃布 1 を押しつけて固定し、清掃具 1 0 を組み立てる。

【 0 0 5 5 】 そして、比較的面积の広いテーブルなどは、主として清掃布 1 の貼り合わせ部 2 の内側を利用して埃などを拭き取る。また、キーボードのキーの間等の狭い隙間等は、非貼り合わせ部 3 を挿入して埃などを吸着させて掃除する。

【 0 0 5 6 】 清掃布 1 の表面の汚れがひどくなった場合には、まず、柄本体 1 1 のファスナー付きテープ T 2 から清掃布 1 を剥がし、次いで、図 5 に示すように、清掃布 1 のスリット 4 の入っていない側を掴んで、当該清掃布 1 をヘッド部 1 2 から剥がすようにして取り外す。このようにしてスリット 4 の入っていない側を掴んで清掃布 1 を剥がすと、スリット 4 の先端部分が支点となるため、当該不織布 1 を極めて容易に取り外すことができる。この際、上記ヘッド部の前方部に貼着したファスナー付きテープ T 1 によって、当該清掃布 1 の内面が引掛かるため、図 6 に示したように、清掃布 1 をヘッド部 1 2 から取り外したときには、当該清掃布 1 が裏返しになる。従って、汚れのひどい表面側にほとんど手を触れずに清掃布 1 を裏返すことができると共に、裏返しになった清掃布 1 を再度ヘッド部 1 2 に装着することで、清掃布 1 を表裏両面共無駄なく使用することができる。

【 0 0 5 7 】 このように、本実施例に係る清掃具 1 0 は、机やテーブルなどの拭き掃除は勿論、狭い隙間の清掃も好適に行うことができる。また、清掃布 1 の取り付け・取り外しも手汚すことなく簡単に行うことができ、使い勝手が良いものである。

【 0 0 5 8 】 また、清掃布 1 が取り替え式であり、汚れた時点で簡単に取り替えることができるため、いつも清潔に使用することができる。

【 0 0 5 9 】 本発明に係る清掃布及び清掃具は、上記実施例の清掃布 1、清掃具 1 0 に限定されるものではなく、本発明の目的を逸脱しない範囲において、その寸法、形状、材質等の形態を適宜変更することができる。

【 0 0 6 0 】 例えば、本発明の清掃布においては、上記実施例の清掃布 1 のように、当該清掃布 1 の開口部の一箇所にスリット 4 を設けることが好ましいが、図 7 に示す実施例の清掃布 1' のように、二箇所にスリット 4' を設けてもよく、或いは図 8 に示す実施例の清掃布 1' のように、スリットを設けなくても良い。

【 0 0 6 1 】 また、上記実施例の清掃具 1 0 においては、柄本体 1 1 とヘッド部 1 2 とは着脱不能の固定式にしたが、図 9 (a) 及び (b) に示す実施例の柄 1 3' のように、柄本体 1 1' のヘッド部を装着する部分に、一対の挿入片部を一体的に設けておくとともに、ヘッド部 1 2' に当該挿入片部に対応した挿入部 1 2 d' を設けておき、柄本体 1 1' とヘッド部 1 2' とを着脱自在且つ上下反転装着可能に設けてもよい。

【 0 0 6 2 】 また、本発明の清掃具においては、上記実施例の清掃具 1 0 における柄本体 1 1 のように、握り手の部分を、ヘッド部を装着する部分に比べて高くなるように設けることが好ましいが、図 1 0 に示す実施例の清掃具 1 0' における柄本体 1 1' のように、径の異なる 3 本の円筒状部材を主体として構成し、これらの円筒状部材を、大径の円筒状部材内に小径の円筒状部材を前後動自在且つ係止可能に連結させ、伸縮自在に設けてもよい。

【 0 0 6 3 】 また、ヘッド部は、ゴミや埃などがたまりやすいコーナー部分に適用できる形態とすることが好ましく、上記実施例の清掃具 1 0 のヘッド部 1 2 におけるような、その先端部に二つの角部 1 2 c を設けた形態の他に、例えば、図 1 1 (a) に示す実施例のヘッド部 1 2' のように、先端部の一箇所に角部 1 2 c' を有する形態とすることもできる。また、ヘッド部は、図 1 1 (b) に示す実施例のヘッド部 1 2' のように、断面形状が凸レンズ状の形態とすることもできる。

【 0 0 6 4 】 また、ヘッド部内に配設する芯材の形態は、特に限定されるものではないが、平面視したときに図 1 2 (a) ~ (b) に示す実施例の芯材 1 1 a' のような形態とすることが好ましい。

【 0 0 6 5 】

【 発明の効果 】 本発明に係る清掃布及び清掃具によれば、以下の効果を奏することができる。請求項 1 に記載の清掃布によれば、貼り合わせ部の内側で拭き掃除を行えるほか、非貼り合わせ部を狭い隙間に挿入できるので、清掃箇所に応じた清掃を良好に行うことができる。また、挿入空間を有する袋状に形成されており、当該挿入空間に柄の先端部などを挿入することによって清掃を行うことができ、取り付けしろが不要であるほか、清掃布を裏返すことによって、表裏両面共使用できるので、経済的である。更に、貼り合わせ部が直接清掃対象に当たらずに済むので、シール方法などで貼り合わせた場合にも当該貼り合わせ部が清掃対象物を傷付けることがない。

【 0 0 6 6 】 請求項 2 に記載の清掃具は、清掃布が挿入空間を有する袋状に形成されており、当該挿入空間に柄の先端部などを挿入することによって簡単に装着でき、取り付けしろが不要であるほか、清掃布を裏返すことによって、表裏両面共使用できるので、経済的である。また、上記清掃布装着用のヘッド部が柔軟性素材からなる

設けられているので、当該ヘッド部に清掃布を装着して清掃する際に対象物に傷をつけることがない。

【0067】請求項3に記載の清掃具によれば、挿入空間に上記ヘッド部を挿入することによって簡単に清掃布を装着でき、取り付けしろが不要であるほか、表裏両面共使用できるので、経済的である。また、ヘッド部が柔軟性素材からなり、しかも貼り合わせ部が直接清掃対象に当たらずに済むので、シール方法などで貼り合わせた場合にも当該貼り合わせ部が清掃対象物を傷付けることがない。更に、貼り合わせ部の内側で拭き掃除を行えるほか、非貼り合わせ部を狭い隙間に挿入できるので、清掃箇所に応じた清掃を良好に行うことができる。

【0068】請求項4に記載の清掃具によれば、上記清掃布の開口部に、少なくとも一箇所以上のスリットが設けられているので、ヘッド部への取付け・取り外しを容易に行うことができる。

【0069】請求項5に記載の清掃具によれば、清掃布を取り外す際に、上記引掛部に当該清掃布の内面が引っ掛かるので、当該清掃布を簡単に裏返すことができる。

【0070】請求項6に記載の清掃具によれば、ヘッド部の先端部に角部が設けられているので、この角部によって、ゴミや埃などがたまりやすいコーナー部分を簡単に掃除することができる。

【0071】請求項7に記載の清掃具によれば、上記柄本体が伸縮自在に設けられているので、清掃箇所に応じて柄本体を伸縮させることができるほか、収納時にもコンパクトに収納することができる。

【0072】請求項8に記載の清掃具によれば、ヘッドを上下に反転させることによって、簡単に未使用面で清掃を行うことができる。

【0073】請求項9に記載の清掃具によれば、上記ヘッド内に、芯材が配設されているので、ヘッドに適度の剛性を付与することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る清掃布の実施例を示す斜視図である。

【図2】同実施例の清掃布の平面図である。

【図3】本発明に係る清掃具の一実施例を示す斜視図である。

【図4】同実施例の清掃具において、ヘッド部に清掃布

を装着している状態を示す斜視図である。

【図5】同実施例の清掃具において、ヘッド部から清掃布を取り外している状態を示す斜視図である。

【図6】同実施例の清掃具において、ヘッド部から清掃布を取り外す際に当該清掃布が裏返しになった状態を示す斜視図である。

【図7】本発明に係る清掃布の他の実施例を示す平面図である。

【図8】本発明に係る清掃布の他の実施例を示す平面図である。

【図9】本発明に係る清掃具における柄の他の実施例を示す斜視図であり、(a)は柄本体にヘッド部を装着した状態を示す斜視図、(b)は柄本体とヘッド部とを分離して当該ヘッド部を上下反転させた状態を示す斜視図である。

【図10】本発明に係る清掃具の他の実施例を示す斜視図である。

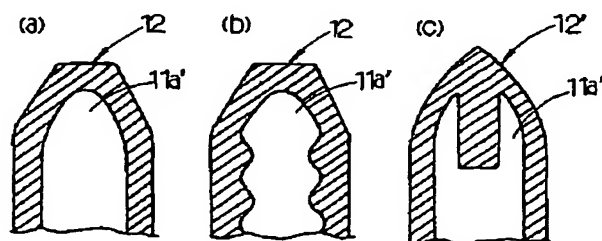
【図11】本発明に係る清掃具における柄のヘッド部の他の実施例を示す図であり、(a)はヘッド部の他の実施例を示す平面図、(b)はヘッド部の他の実施例を示す斜視図である。

【図12】本発明に係る清掃具におけるヘッド部内の形態を示す図であり、(a)はヘッド部の形態及びヘッド部内の配置を示す要部平断面図、(b)はヘッド部の形態及びヘッド部内の配置を示す要部平断面図、(c)はヘッド部の形態及びヘッド部内の配置を示す要部平断面図である。

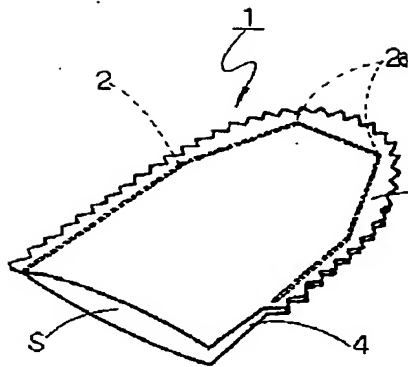
【符号の説明】

- 1 清掃布
- 2 貼り合わせ部
- 3 非貼り合わせ部
- 4 スリット
- 10 清掃具
- 11 柄本体
- 12 ヘッド部
- 12a 芯材
- 12c 角部
- 13 柄
- S 挿入空間
- T1 引掛部

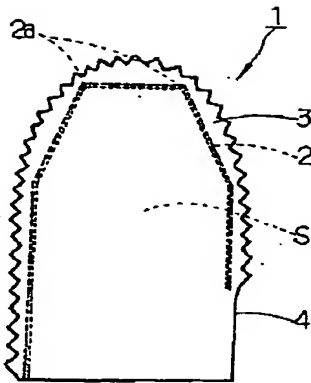
【図12】



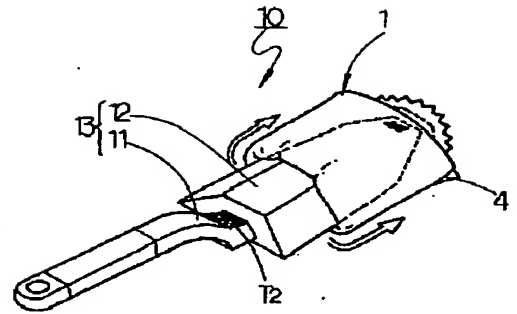
【図 1】



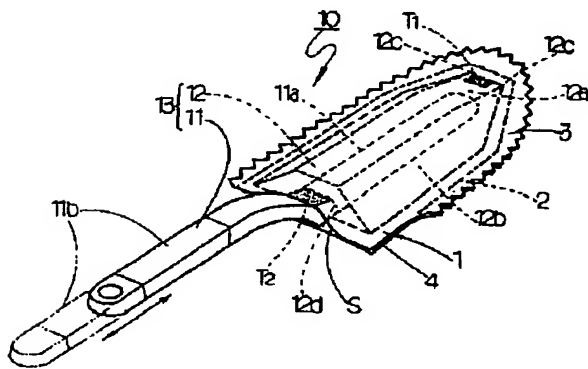
【図 2】



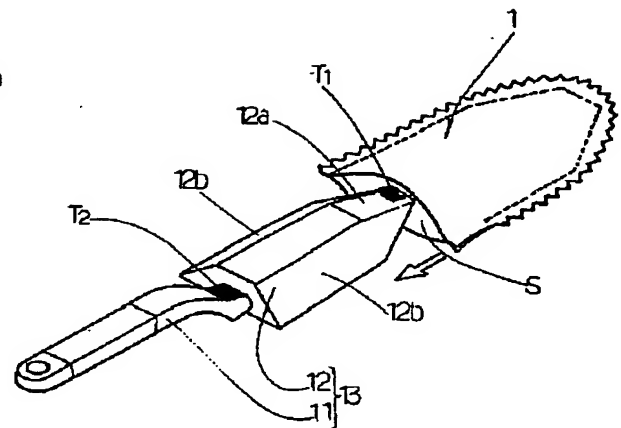
【図 5】



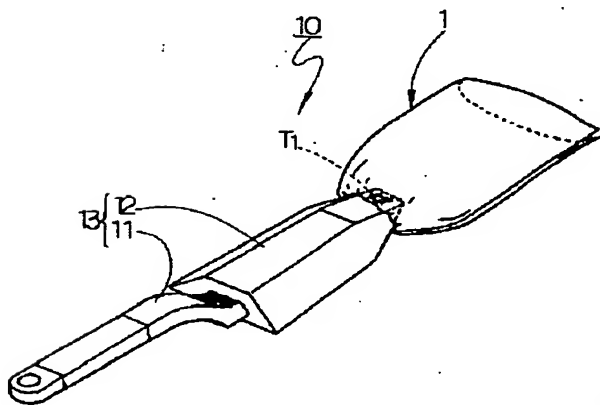
【図 3】



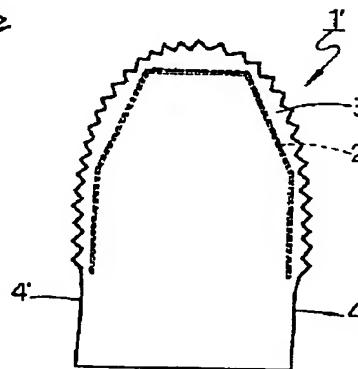
【図 4】



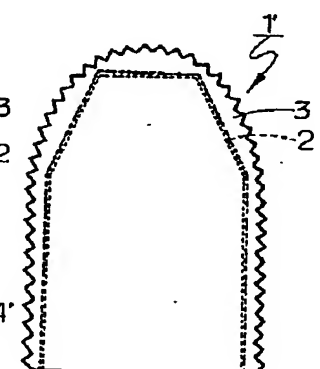
【図 6】



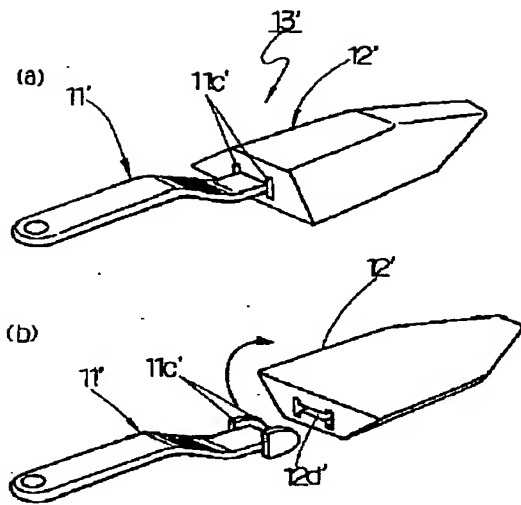
【図 7】



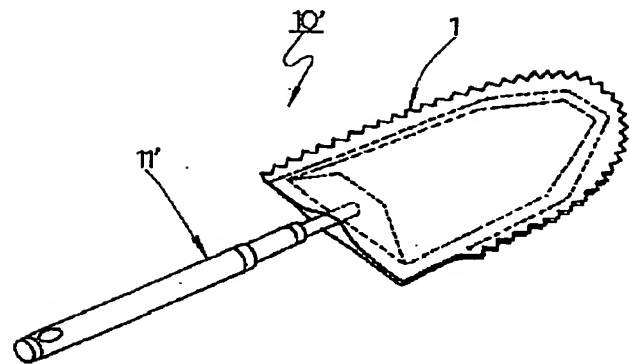
【図 8】



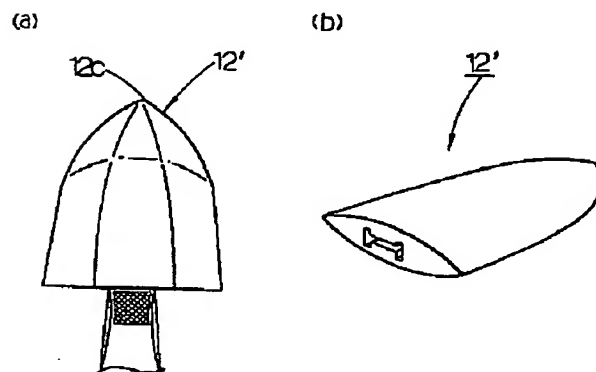
【図 9】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

- (72) 発明者 堤 泰樹
栃木県芳賀郡市貝町赤羽 2 6 0 6 花王株式会社研究所内
- (72) 発明者 青木 幸子
栃木県芳賀郡市貝町赤羽 2 6 0 6 花王株式会社研究所内
- (72) 発明者 世代 文彦
東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内
- (72) 発明者 平山 晴信
東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内